高鍋の自然 高鍋の美しく豊かな自然

貴重な動植物の宝庫

「高鍋湿原」

日本でも希少種となった植物や昆虫が生息し、毎年三月下旬から十月下旬まで開園しています。湿原は東部と西部に分かれており、「トンボの橋」でつながっています。

東部では、黄色い花のサワオグルマ（三月下旬から四月頃）や紅紫色のヒメノボタン（八月頃）、西部では、白い可憐な花のサギソウ（八月頃）や多くのトンボ（五月から十月）などが見られ、観賞路からゆっくりと観察することができます。

また、宮崎県内での生息は珍しいとされるヘビノボラズや、体長が二センチほどのハッチョウトンボ（五月から九月ごろ）など、絶滅が危惧される貴重な動植物も見られます。

そのほか、淡紫色の花を咲かせるカザグルマ（五月ごろ）など、四〇〇種類以上の植物が生育しているとみられています。

ハッチョウトンボ

カザグルマ

サギソウ

郷愁を誘う美しき里山風景

「四季彩のむら」

こんもりとした森が点在し、小川が田畑と森の間をぬって流れている風景。春には田んぼ一面にれんげ草が咲き、初夏は水田の緑が美しく広がります。秋には稲穂が黄金色に実り、それらの稲を刈り取り天日干しする里山の風景は、昔を思い起こさせる懐かしさがあります。また、秋が深まるとソバの白い花も見られるようになります。

四季彩のむらは、十二戸の農家が平成十三年から昭和の農村風景を残そうと、石積みの棚田に農作物の植え付けを行う活動をしているものです。ここでは子どもたちに田植えや稲刈り、収穫の喜びを味わってもらうとともに、食と自然との関わりを身を通して学んでもらっています。

平成二十二年には棚田の周りに遊歩道が完成し、近くにある高鍋湿原まで豊かな自然を満喫しながら散策することができます。

春の里山
今では見ることが希少になった春のれんげ草

秋の里山
稲の天日干しは秋の風物詩

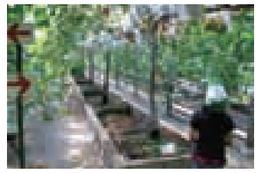
新緑の四季彩のむら

広い空間でゆっくり、のんびりと―

町民の憩いの場所です！「ルピナスパーク」（宮崎県農業科学公園）

ルピナスパークは、「農業とおいしく、たのしく、おもしろく出会える」ことをテーマにした公園です。

十六ヘクタールの広大な敷地には、ふれあいゾーン・いこいのゾーン・わくわくゾーン・のびのびゾーンがあり、農業の歴史や先進技術を楽しく学べる「農業科学館」や、アスレチック遊具を備えた「冒険の広場」、「ウォーターランド」などの施設があります。家族連れでのレジャーには特におすすめです。


ぶどう収穫体験
パーク内のぶどう畑での収穫体験。たわわに実ったぶどうを摘むのは、大人も子どもも大好き。もぎたてのぶどうはとてもジューシーです。

水鉄砲作り体験
親子で作った竹の水鉄砲で早速遊びます。子どももさることながら親も夢中です。

手打ちそば体験教室
子どもから大人までが体験できる教室。参加者は家でも作ってみたいと、仲良く取り組んでいました。

心と体をリフレッシュ！

自然の中の温泉処「めいりんの湯」

ゆったりとした時間の中で、高鍋の歴史に思いを馳せる！

「めいりん」の名は、名君で名高い高鍋藩第七代藩主秋月種茂公が創設した藩校「明倫堂」にちなんで名付けられました。高鍋湿原が近くにあり、豊かな自然に囲まれた癒しの空間です。ここには二つの露天風呂や二タイプのサウナなどバリアフリーでやさしい設計の風呂はもちろん、食事が楽しめる「レストラン萬菜亭」があります。

また、都市と農村の交流を促進させるため、地元産農産物を販売する「萬菜館」が直売所の役割も担っています。